

コートジボワール（2025年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在コートジボワール日本国大使館](#)

1. 2024年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

1.2024年度日本語教育機関調査結果

初等教育			中等教育			高等教育			学校教育以外			全体の合計		
機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数
0	0	0	1	1	491	3	6	742	5	6	126	7	13	1,359

（注）2024年度日本語教育機関調査は、2024年9月～12月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

2.日本語教育の実施状況

全体的状況

沿革

1994年に、アビジャンのココディ大学（現フェリックス・ウフエ＝ボワニ大学）で日本語コースが開講されたが、同コースは内戦により2003年に中止。2005年には、アビジャンの私立中学・高校 MISA（Management Informatique Sports et Arts）で入門レベルの日本語講座が開講。2012年以降には、コートジボワール第二の都市ブアケのアラサン・ウワタラ大学、アビジャンの私立中学・高校グループ・スコレール・ニッポン（Groupe Scolaire Nippon）、ブアケの私立中学・高校グループ・スコレール・エスペランス（Groupe Scolaire Espérance）で入門～初級レベルの日本語講座が開講された。なお、MISAは2020年、学長が他界し閉校した。また、上記グループ・スコレール・ニッポンは2023-24年、日本語の授業を行っていない。

背景

日本に対する理解度は一般に高いとは言えないが、日本のアニメは、仏衛星放送 (Canal+) やインターネットを通じて簡単に視聴できるためマンガと共に、特に、子どもや若者の間で人気が高い。また、電化製品や自動車などをはじめとする日本の技術力の高さに対する信頼は厚く、経済成長の歴史への関心も高い。なお、柔道・空手は、両連盟が活発に活動しており、東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会開催により、さらに注目を集めており、日本武道に対する関心と認知度も高まっている。

特徴

コートジボワールでは、元国費留学生や JF の研修で日本に滞在した経験のあるコートジボワール人教師らが日本語授業を行っている。2019 年 5-6 月にはブアケのアラサン・ウワタラ大学のンドゥリ・アルフォヌス・ルノー教師が JF の日本語教師研修に参加した。また、2023 年には、グループ・スコレール・エスペランスのクアメ・アモアン・マリ＝ミシェル氏、2024 年にはグループ・スコレール・ニッポンのバ・アレン・パック氏、2025 年にはアビジャン日本語学院のジンプリル・マリ・フランス氏が同研修に参加した他、2023 年、アラサン・ウワタラ大学のンゲッサン・ヤオ＝マリウス・セドリック氏が日本語学習者訪日研修 (各国成績優秀者) に参加した。

現在、アビジャンとブアケの複数機関において、入門～初級レベルの日本語授業が行われている他、インターネットなどを通じ独学で日本語学習に取り組む学習者も存在する。

最新動向

2023 年 6 月、アビジャン市のフェリックス・ウフエ＝ボワニ大学内に日本の支援によって整備された、日本語教育・日本研究振興センター (通称ジャパン・コーナー) が設立され、9 月から第一回日本語教育 (入門コース・3 ヶ月) が開始され、2024 年 2 月 (第二回)、同年 10 月 (第三回) と継続して 3 か月の日本語教育が行われた。2024 年 12 月にはジャパン・コーナーと戸田国際財団との間で協力協定が締結され、2025 年 4 月 (第四回) からは、日本人講師による日本語教育が行われている。

2025 年 6 月には、令和 5 年度草の根文化無償「アラサン・ウワタラ大学日本語教育・日本研究振興センター整備計画」で整備された第二の日本センターである通称エスパス・デュ・ジャポンが開設された。

2016 年 12 月に、アビジャン市にある国際バイリンガル・アフリカ大学 (Université Internationale Bilingue Africaine) にて、コートジボワールで初めての日本語能力試験 (JLPT) が実施されて以来、コートジボワールでは毎年同試験が実施されている。2020 年については、新型コロナウイルスの影響により中止となったが、2021 年には再開が決定され、同年及び 2022 年には、アビジャン郊外の私立エフラタ大学で JLPT が実施された。2023 年からは、新たに設立されたジャパン・コーナーにて年に一回実施されている。

教育段階別の状況

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

ブアケの私立グループ・スコレール・エスペランスにおいて、日本語授業が行われている。同学校の 2025 年度日本語学習者は 340 人。

高等教育

ブアケの国立アラサン・ウワタラ大学において、外国語の選択科目として日本語授業が行われている。なお、同大学は、仏語圏アフリカで唯一日本語の単位を取得することができる国立大学である。2021 年日本語教育機関調査の結果によると、250 名の学生が日本語を外国語選択科目として学んでいる。

学校教育以外

日本文化愛好者のサークルとしてアビジャンで立ち上げられた明治文化学院では、主に成人を対象とした初級日本語授業を行っていたが、現在は文化活動が中心になっている。アビジャン日本語インスティテュートは、私立の高等専門学校内で日本語の授業を実施している。2023 年 9 月からは、フェリックス・ウフエ＝ボワニ大学内の日本語教育・日本研究振興センター（通称ジャパン・コーナー）で、また、2025 年 6 月からはアラサン・ウワタラ大学内の日本語教育・日本研究振興センター（通称エスパス・デュ・ジャポン）で日本語授業が行われている。

3.教育制度と外国語教育

教育制度

教育制度

6-4-3 制。

小学校が 6 年間（6～12 歳）、前期中等教育機関の中学校が 4 年間（12～16 歳）、後期中等教育機関の高校が 3 年間（16～19 歳）でバカロレア受験。

その後の高等教育機関は次のサイクルで進級する。

- 第 1 サイクル：学士（3 年）
- 第 2 サイクル：修士（2 年）
- 第 3 サイクル：博士（3 年）

ほかに技術学校（2 年）、エンジニア養成学校（3 年）、公務員養成学校 ENA（2 年、ただし入学には 3 年の職務経験を要する）、教員養成学校 ENS（小学校、中学校、高校用）がある。

教育行政

初等、中等教育機関：国民教育省が管轄している。

大学、グランゼコール：高等教育・科学研究省が管轄している。

言語事情

公用語はフランス語。その他、約 60 の民族語が存在する。

外国語教育

6 年間の初等教育課程においてはフランス語のみを履修する。

4 年間の中等教育課程のうち、前半 2 年は英語（必修）、後半 3 年は英語に加え、第二外国語（ドイツ語または

スペイン語)を履修する。

高等教育では、中等教育課程で選択した2言語(英語とドイツ語またはスペイン語)を引き続き履修する。

外国語の中での日本語の人気

他の外国語(英語、ドイツ語、スペイン語)と比較すると学習者の数は少ないが、一部学生や一般市民の間で日本語学習に対する関心が高い層が存在する。2012年12月に日本大使館が第一回日本語弁論大会を開催したところ、コートジボワール初の日本語弁論大会で応募者数は少なかったものの、最終選考を通過した発表者たちの日本語レベルは非常に高いことが明らかになった。

大学入試での日本語の扱い

大学入試で日本語は扱われていない。

4. 学習環境

教材

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

ブアケの私立中等教育機関グループ・スコレール・エスペランスでは、日本語教師歴約4年且つブアケのアラサン・ウワタラ大学言語学部修士号取得の日本語教師が作成した自作教材が使用されている。

高等教育

国立大学アラサン・ウワタラ大学では、『みんなの日本語』(スリーエーネットワーク)を使用。

学校教育以外

ジャパン・コーナーの日本語教室では、国際交流基金が作成した教材を元に、講師が独自に作成した教材を使用している。

IT・視聴覚機材

2020年現在、日本語教育へのIT・視聴覚機材の使用は確認されていない。他方、2023年6月に設立されたフェリックス・ウフエ=ボワニ大学内の日本語教育・日本研究振興センター(ジャパン・コーナー)では、日本語学習用の視聴覚機材が配備されている。

大学及び私立の語学学校では、インターネットを利用した情報収集の方法を指導しているほか、日本語学習のサイトやアプリ、日本関係のサイトなどを学生に紹介している。学生との連絡や宿題の提出をEメールで行うこともある。

5. 教師

資格要件

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

JF の研修で日本に滞在した経験のあるコートジボワール人教師が日本語を教えている。

高等教育

元国費留学生及び JF の海外日本語教師研修に参加した経験のあるコートジボワール人教師が教えている。

学校教育以外

JF の研修で日本に滞在した経験のあるコートジボワール人教師が日本語を教えている他、2025 年 4 月から、ジャパン・コーナーでは日本人教師が授業を実施している。

日本語教師養成機関（プログラム）

日本語教師養成を行っている機関、プログラムはない。

日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

日本語のネイティブ教師は 1 名。

教師研修

教師研修は実施されていない。

6. 教師会

教師会は存在しないが、現地の日本語教師が主体となって 2018 年に日本語教育の普及を目的とした緩やかなネットワーク（Association des enseignants bénévoles de langue japonaise）が作られ、ヤムスクロで会合が開催された。しかしながら、それ以降、同教師会は特段目立った活動を行っていない。

7. 日本語教師派遣情報

国際交流基金からの派遣

国際協力機構（JICA）からの派遣

JF、JICA からの派遣は行われていない。

その他からの派遣

戸田国際財団から1名派遣されている。

8.シラバス・ガイドライン

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムはない。

9.評価・試験

評価・試験の種類

2016年12月以降、日本語能力試験（JLPT）が実施されている。

10.日本語教育略史

1994年	アビジャンのココディ大学（現フェリックス・ウフエ＝ボワニ大学）にて日本語コース開講
2003年	内戦により上記コースが中止
2005年	アビジャンの私立中等教育機関である MISA が入門レベル日本語講座を開講
2009年	日本文化愛好者サークルである明治文化学院が入門レベルの日本語講座を開講。 また、私立中等教育機関であるグループ・スコレール・ニッポンが日本語教育を開始
2012年	ブアケの国立アラサン・ウワタラ大学で外国語の選択科目としての初級日本語講座開講
2015年	国立アラサン・ウワタラ大学は、JF が日本語教育機関として認定する「さくらネットワーク」に加盟
2016年12月	日本語能力試験（JLPT）を実施（以降、現在に至るまで、コートジボワールでは毎年12月に同試験を実施）
2020年	MISA がコロナ蔓延中に学長が他界し閉校
2012年	ブアケの私立中等教育機関グループ・スコレール・エスペランス

が日本語教育を開始

2023 年

アビジャンのフェリックス・ウフエ＝ボワニ大学内に設立された日本語教育・日本研究振興センター（ジャパン・コーナー）が日本語教育（3 か月コース・年 2 期）を開始。

2025 年

戸田国際財団とジャパン・コーナーの協力協定の枠組みで、日本人日本語教師 1 名が派遣。

情報更新についてのお願い

この国の日本語教育に関する情報がありましたらお知らせくださるようお願いいたします。
なお、内容の確認のため、こちらからご連絡する場合があります。

E メール：kunibetsu@jpf.go.jp

（メールを送る際は、全角@マークを半角@マークに変更してください）